

◎令和4年度白石市国民健康
保険特別会計予算

〔質疑〕国民健康保険の税収が減少する中、医療費が増加している。

いずれは税収を上げるため、保険税の増額も検討しなければならなくなるのではないかと考えを伺う。

〔答弁〕本市では平成21年度以降、保険税率を上げる改正は行っていない。

しかし、被保険者の高齢化と、加入者の減少傾向が続く中、このままの税率では歳入不足は避けられないと考える。

財政調整基金の残高減少に伴い、税率改正が必要となる時期が来るが、その時期や改正内容などについては慎重に検討していく。

また、宮城県の国民健康保険運営方針では、将来的に県内の保険料率水準の統一を目指すこととしており、これには課題も多いことから、統一に向けた議論や環境整備について、県との協議を継続していく。

◎令和4年度白石市水道事業
会計予算

〔質疑〕広域水道用水供給事業からの受水については、日量5千600トンが必要とのことだが、自己水源の水量を100%使った場合でもこのくらい必要になるのか。

〔答弁〕県との覚書で、前年度と同じ数量としているが、受水費について、基本料金、使用料金を予定水量から算出すると、約168万4千立方メートルを購入する必要がある、総配水量から見ても、二ツ森、三住からの自己水源だけでは賄えないところである。

討 論

予算審査特別委員会（2月28日）および定例会最終日（3月8日）において、第19号議案に対する討論が行われました。

定例会最終日に行われた討論の主な内容は、次のとおりです。

◎第19号議案・令和4年度
白石市一般会計予算

反 対 伊藤 勝美

新型コロナウイルス感染症が全国的に猛威を振るい、それらに対するさまざまな支援策を予算案に傾注されていることは理解する。

また、感染症収束の見通しのない状況において予算編成に当たり、感染症の影響を最小限に食い止めるべく、ワクチン接種事業に対する積極的な推進など、市の取り組みについても評価する。

しかし、市民の安心・安全の実現に不可欠である、公立刈田総合病院に関わることに付いて指摘をしたい。

令和4年度当初予算における公立刈田総合病院の繰出金は、白石市で9億円、1市2町で10億3千800万円とされている。このことは、平成30年度から一挙に繰出金を激減させ、医業収入も上げられず、病院経営は借入れを余儀なくさせてきた、公設民営

化推進手法のツケが回ってきたと言えるのではないかと。

また、1月に開催した公立刈田総合病院に係る住民説明会の資料に「令和4年度構成団体繰出金額は、19億7千万円」と記載されているが、この予算では到底賄い切れないといつことをあえて表明したにすぎない。

公立刈田総合病院の現在に目を向ければ、短期間の経過の進展に、衰退とも思われる姿をさらけ出し、病院機能不全との声もささやかれるに至る。このような現状に至った原因は、本市からの過年度における繰出金の減額と、合議体としての白石市外二町組合における正副管理者の合意がないままに、指定管理者制度導入による公設民営化を目指したことが誘因ではないかと推察される。

令和4年度の当初予算については、スマートインターチェンジ周辺整備事業に係る費用など、多くの課題はあっても、今、一番重要で、市民が期待するものは、白石市としてどれくらい刈田病院関連予

算を計上し、いかに公立刈田総合病院を再生するかにかかっているのではないだろうか。

確かに、公立刈田総合病院の当初予算においては、前年より改善された予算づけがされているが、果たしてこれでいいのか疑問と言わざるを得ない。

以上の理由から、第19号議案に反対である。

賛 成 菊地 忠久

令和4年度一般会計予算は、目の前の課題に対応しながら、ウィズコロナ、アフターコロナといった新たな将来像や、10年先、20年先を見据えたバランスに配慮した予算案となっている。

これまで取り組んできた教育改革は第2ステージを目指し、地方教育アドバイザーの派遣や英語特区など、学力向上プロジェクトの推進および教育DXの推進が図られ、さらに学びの機会の保障のため、教育相談支援事業の推進が図られた予算となっている。